

2023年9月印刷の月 印刷文化典

一般社団法人 日本印刷産業連合会



「2023年9月印刷の月 印刷文化典」を開催

日本印刷産業連合会表彰 [印刷文化賞]金子氏、藤森氏、水野氏、[印刷功労賞]13名、
[印刷振興賞]18名、[特別賞]1団体1名が受賞

第21回印刷産業環境優良工場表彰 [経済産業大臣賞] (株)研文社 尼崎工場、
[日印産連会長賞]3工場、[奨励賞]8工場を表彰

一般社団法人日本印刷産業連合会が主催する2023年「9月印刷の月 印刷文化典」記念式典は、9月13日(水)東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鶴の間」に於いて、経済産業省をはじめとする来賓を迎え開催された。「印刷の月」は、昭和61年に印刷産業の活動を広く社会に理解・認識していただくための普及・周知期間として定めたもの。本年度は4年に一度の印刷文化典の年に当たる。

式典開催に先立ち、講演者にダイヤ精機(株)代表取締役の諏訪 貴子氏を迎え「町工場の星、諏訪貴子氏に学ぶ新経営改革」のタイトルで講演会を行った。

印刷業界の発展に貢献した功績を称え贈られる日本印刷産業連合会表彰は、最高賞の印刷文化賞に3名、印刷功労賞13名、印刷振興賞18名、特別賞1団体1名が受賞、表彰を受けた。

また、第21回印刷産業環境優良工場として12工場を選出。経済産業大臣賞を(株)研文社 尼崎工場が受賞、日本印刷産業連合会 会長賞に3工場、同奨励賞には8工場が選ばれた。

表彰式後には4年ぶりとなる懇親会が、堆 誠一郎副会長の挨拶と(一社)日本印刷産業機械工業会の森澤 彰彦会長による乾杯の発声によってスタートし、それぞれに交流を深め合う賑やかな宴が繰り広げられた。

北島会長あいさつ

記念式典は一同起立しての国歌斉唱によりスタートした。開催にあたり主催者を代表し北島義斉会長が登壇、挨拶を行った。

「平素より日本印刷産業連合会の活動に、格別のご理解・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本日は経済産業省 商務情報政策局の牛山智弘審議官様をはじめコンテンツ産業課の皆様、そして多くのご来賓の方々にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。」

今年「9月印刷の月」は、4年に一度の「印刷文化典」に当たります。皆さま方の多大なるお力添えのもと、記念式典を開催できますことに心より感謝申し上げます。



主催者を代表して挨拶する北島義斉会長

来賓祝辞

続いてご来賓の紹介があり、来賓を代表して経済産業省商務情報政策局 牛山審議官から祝辞が述べられた。牛山審議官は、印刷文化典開催へのお祝いの言葉のあと、「印刷産業の高度化と発展を通じて、我が国産業界全体の発展と国民生活の向上に大きな役割を果たしてこられた貴連合会の皆様、長年にわたり印刷産業の発展に寄与され日印産連表彰を受ける皆様、環境対策など社会的課題に取り組み印刷産業環境優良工場表彰を受賞される皆様に心より敬意を表します。

印刷産業は商業印刷や出版印刷をはじめ、私たち身の回りの多くのものに関わっており、その地域の顧客のニーズや昨今の産業構造にあわせた多様な事業展開は、日本のサプライチェーンにおける重要な位置を占めると同時に、国民生活を支える重要な産業です。その中で貴連合会は傘下10団体、会員企業6,371社を束ねる印刷産業界の中心として、印刷産業だけでなく、関連産業の振興に不可欠な組織であります。貴連合会は昨年より「Change Together-感動と夢を与える新しい産業へ」をスローガンに掲げられ、新体制のもと2030年を見据えた印刷産業のあるべき姿を描く新たなグランドデザインの今年度内の策定に向けて検討を進められていると承知しております。

エネルギー価格・原材料価格の高騰や、紙の印刷需要の減少など厳しい経営状況の中で、印刷産業の持続的な成長が成されますよう、経済産業省としてもしっかりと応援させていただきます。具体的には、印刷業界を含めたコンテンツ業界のDX支援や事業再構築支援、生産性向上のための設備投資支援等の補助金を措置しております。印刷産業の枠を超えた新しい価値の創出や、印刷産業全体としての生産性向上と付加価値創出に取り組んでいただき、我が国経済の牽引役となっていただくことを期待しております。

また、経済産業省は昨年度、印刷業界の皆様とともに下請ガイドライン改定案および印刷産業における取引改善等に向けた方策を検討させていただき、下請ガイドラインを改定いたしました。皆様にご協力を賜り、改めて感謝申し上げます。今後も下請け取引適正化に向けて、業界の皆様と引き続き強く連携して取り組んでいく所存です。

全国の各地域に根ざし事業を展開されている皆さまの活躍なくして日本経済の成長はありません。今後も地域から日本を元気にしていただくことを期待しております」と挨拶を行った。



来賓祝辞 牛山智弘経済産業省商務情報政策局審議官



壇上の来賓の皆さま

本式典では、印刷業界に多大な功績を残された「日本印刷産業連合会表彰」を受賞された皆様、環境配慮などでの模範なる「環境優良工場表彰」を受賞された皆様、誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げますとともに、これからも業界発展にお力を尽くされることを期待しております。

先ほどの記念講演会では、ダイヤ精機(株)の代表取締役 諏訪貴子様に大変貴重なお話をいただきました。ご自身のリーダーシップのもとで工場の経営改革に挑んで、他社のモデルとなるような企業へと変貌させたこと、社員の方々の意識改革や人材採用をはじめとして、常に新たな改革に取り組んでいることなど、とても示唆に富んだお話を伺うことができました。私たち自身も更なる改革に挑戦していきたいと思っています。ありがとうございました。

さて、国内では新型コロナウイルス感染症が5類に移行して行動制限が緩和され、個人消費やインバウンド需要が増加するなど社会全体で回復傾向になり、製造業でも半導体の供給不足の緩和などによって、業績の改善がみられています。一方で、原材料や原油価格の高止まり、労働人口の不足であるとか物流の2024年問題、気候変動や地球温暖化など、私たち印刷産業にも大きな影響が懸念される問題が続いています。こうした状況の中で、これからの印刷産業がより良い未来を切り拓いていくには、人々の暮らしや社会の変革を的確に捉えて、デジタルトランスフォーメーションや人工知能の進展などを追い風にしていくことが大切だと思います。生産性の向上や業務プロセスの最適化、労働力不足の解消などの課題に対してDXやAIなどは大きな効果を発揮すると思います。特にAIは文章や画像などの会話形式で自動生成するまでになり、人と人とのコミュニケーション活動に深く関わっている我々印刷産業としては、そのメリットの部分を十分に生かしていく必要があると感じています。

また、今年の夏の猛暑や各地の自然災害を考えますと、環境に優しい素材や製品・サービスの開発、リサイクルの推進、エネルギー効率の向上など、持続可能性を高める取り組みも加速させなければならないと考えます。社会課題の解決が期待される中、私たち印刷産業が果たすべき役割は、これまで以上に重要になってくると思います。

日印産連では現在、SDGsの目標達成年である2030年の印刷産業のあるべき姿を見据えて、未来を切り開く新しい印刷産業の実現に向けて議論を深めています。これまでの「印刷」を再定義し、さらなる事業領域の拡大や付加価値の創出を進め、持続可能な環境・社会・経済の実現に取り組んでまいります。引き続き会員10団体の皆さまとの連携をさらに深め、世の中と業界の発展に努めて、社会的な責任を果たしていきたいと思っていますので、各団体におかれましては、さらなる活動の推進を期待しております」とし、会員10団体と関連業界の今後の発展を願って結びとした。

2023年度 日印産連表彰

■印刷文化賞

4年に一度の印刷文化典には、日印産連表彰の最高賞である印刷文化賞が贈られる。2023年度は、金子眞吾氏 日印産連顧問(日印産連元会長／凸版印刷(株) 代表取締役会長)、藤森康彰氏 日印産連常任理事(日印産連前会長／共同印刷(株) 代表取締役社長)、水野雅生氏 ミズノ・プリンティング・ミュージアム 館長(ミズノプリテック(株) 取締役会長)の3氏に、長年にわたる印刷産業の発展、印刷文化の昂揚に貢献されたことに対し敬意を持って贈られた。

■印刷功労賞・印刷振興賞

団体運営を通じて印刷産業の発展向上に寄与された方々に対して行う印刷功労賞には、別掲13氏(p10～)が表彰され、代表して凸版印刷(株) 副社長 大久保伸一氏にプレゼンターの北島会長から表彰状と記念品が授与された。

業務の進歩改善や後進の育成などに貢献した方々に贈られる印刷振興賞は、別掲18名(p14～)が受賞し、二組に分かれ授与式を行った。河和田屋印刷(株) 代表取締役社長 佐々木

慎一氏と(株) セイユー社 代表取締役社長 青木重雄氏がそれぞれを代表して表彰状と記念品を受け取った。

■特別賞

FSC森林認証制度取得を通じたSDGsの推進活動を評価し、福島県印刷工業組合 郡山支部(支部長 石井祐一)が団体として特別賞を受賞した。

また個人の特別賞として、第46回技能五輪国際大会(特別開催)の日本代表選手の甲斐田 光氏((株) 丸信)が、その健闘をたたえ受賞した。

■受賞者代表謝辞

受賞者を代表し、印刷文化賞を受賞した金子氏が「印刷産業はグーテンベルクの時代から情報と印刷文化の担い手として、印刷テクノロジーを核にさまざまな技術革新と新サービスの開発によって、産業界や人々の暮らしに極めて重要な役割を果たしてまいりました。この10年は社会の急速なデジタル化、ネットワーク化に加え、地球環境問題やコンプライアンス、ダイバーシティなどSDGsへの対応などについても取り組んでまいりました。私たち受賞者はそれぞれが様々な分野で、その一役を担ってま

印刷文化賞



印刷文化賞 金子眞吾氏



印刷文化賞 藤森康彰氏



印刷文化賞 水野雅生氏



印刷文化賞受賞の諸氏

印刷功労賞



印刷功労賞 代表 大久保伸一氏



印刷功労賞受賞者の諸氏



謝辞を述べる金子眞吾氏

いりましたが、このような形で表彰されることは、誠に光栄でございます。これもご臨席の皆さまのご支援とご協力の賜と存じ、心から感謝と御礼を申し上げます。

近年は社会のデジタルトランスフォーメーションやAIの進展によってコミュニケーションの在り方が激変し、印刷市場は縮小傾向と言われ

れますが、我々印刷産業の使命であり最大の強みは、コミュニケーションやお客様の業務プロセスを最適化し課題解決することです。その意味で社会のデジタル化は印刷産業にとって、最大のチャンスであり、この改革を推し進める力があると私は信じています。

これまで培ってきた情報デザイン力と課題解決力でデジタル社会に対応した新たな印刷産業へ進化発展することを願っております。私ども受賞者一同は本日改めて印刷産業の未来に向け、更なる精進をまいります。本日は誠にありがとうございました」と、謝辞を述べ、会場から祝福を込めた盛大な拍手が送られた。

講演会

町工場の星、ダイヤ精機(株) 代表取締役 諏訪貴子氏に学ぶ 新経営改革 講演者 諏訪 貴子氏

ダイヤ精機(株)は東京都大田区にある自動車用部品用ゲージの超精密加工技術を持つ町工場である。諏訪氏は2004年に創業者である父の急逝を受け、32歳にして主婦からいきなり同社の社長に就任した。それまで二度ほど社員として同社に勤めたが、リーマンショックの売上減の際にリストラによる企業再生案を提案するも却下され、自分自身がリストラになり、さらに承継後にも起こる数々の苦難を乗り越え、強い意志で独自の経営改革を成し遂げた。

印刷業と分野は違うが、経営改革は“スピード感”と“社員との一体感”が必須であること、技術を継承しつつ若手主体の町工場へ移行するための“人材育成の取り組み”など、中小企業の抱える課題に対し、示唆を与える講演会となった。諏訪氏は自らの体験をこぼれる笑顔とやさしく軽快な話術で語り、聴衆を魅了した。

著書には『町工場の娘 主婦から社長になった2代目の10年戦争』(日経BP社 2014年)、『ザ・町工場“女将”がつくる最強の職人集団』(日経BP社 2016年)がある。また、この著書を原作にした「マチ工場のオンナ」がNHKでドラマ化された。



印刷振興賞

印刷振興賞 代表 佐々木慎一氏



印刷振興賞受賞者の諸氏 (1組目)



印刷振興賞 代表 青木重雄氏



印刷振興賞受賞者の諸氏 (2組目)

特別賞



特別賞 福島県印刷工業組合郡山支部



特別賞 甲斐田光氏

第21回 印刷産業環境優良工場表彰

印刷産業環境優良工場制度は印刷産業の環境問題に対する取り組みを促進し、印刷工場の環境対応を進めること、並びに印刷産業の環境対応を広く社会一般に知っていただき、印刷企業に対する社会や顧客の一層の理解を得ることを目的に2002年に創設した。

2023年度第21回 経済産業大臣賞は、(株)研文社 尼崎工場(兵庫県)が受賞。経済産業省 牛山審議官より取締役執行役員 長谷川博明氏と尼崎工場工場長河田和弘氏に賞状とトロフィーが手渡された。

日本印刷産業連合会 会長賞は、(株)スマートグラフィックス 戸田工場(埼玉県)、佐川印刷(株)日野工場(滋賀県)、(株)丸信 本社・山川工場(福岡県)の3工場が受賞した。代表して佐川印刷(株)の代表取締役副社長藤澤正氏に、北島会長より賞状と記念品が贈られた。

奨励賞には、(株)木元省美堂 戸田工場(埼玉県)、福博綜合印刷(株)新宮工場(福岡県)、(株)プリプレス・センター PPCファクトリー(北海道)、丸正印刷(株)本社工場(沖縄県)、(株)ショウエイ(東京都)、(株)ILファーマパッケージング 栃木工場(栃木

県)、(株)常川製本 戸田工場(埼玉県)、プリントス(株)(愛知県)の8社が受賞。代表として丸正印刷(株)代表取締役社長与那覇正明氏に賞状と記念品が授与された。

経済産業省 商務情報政策局長賞と一般社団法人日本印刷産業連合会 特別賞はともに該当工場無しとなった。

受賞者を代表し(株)研文社の長谷川氏が登壇、謝辞を述べた。

「弊社の環境取り組みは平成27年第14回表彰に埼玉工場が奨励賞を受賞したことに始まります。そこから続きまして基幹工場である尼崎工場でも開始し、第17回に会長賞、第18回に局長賞を受賞させていただきました。ですが、弊社トップからの“金メダルを取るまで取り組みを止めるな”と、その強い意志を受けチャレンジを続けました結果、ついに今回経済産業大臣賞まで辿り着くことができました。これは成功するまで諦めないという思いで全社一丸となって取り組み続けた結果だと自負しております。

また、弊社は日本サステナブル印刷協会に参画したことにより、工場運営のCO₂ゼロ化、印刷物生産における案件単位のCO₂の排出量を算定できるようになったことも、今回の受賞に大きく寄与していると考えています。

さて、印刷物をはじめとする紙製品が環境に良くないというイメージが、紙離れに繋がっている現況には苦しい思いは尽きませ

経済産業大臣賞



経済産業大臣賞 賞状授与



経済産業大臣賞 トロフィー授与



経済産業大臣賞 (株)研文社 尼崎工場

日印産連会長賞



日印産連会長賞受賞の3工場



日印産連会長賞 代表 佐川印刷(株)日野工場 藤澤正氏

奨励賞



奨励賞受賞の8工場



奨励賞 代表 丸正印刷(株) 与那覇正明氏



謝辞を述べる長谷川博明氏

ん。環境貢献を対外的に発信することも必要ですが、環境への積極的な取り組みがビジネス面での成功に繋がった事例こそが、この取り組みが拡大していくことの近道になるのではないかと考えております。

環境取り組みに目標こそありますが、終わりはない。弊社が大臣賞受賞することができたように、業界としても成功するまで諦めず環境配慮に取り組み続けることが、紙離れに対抗しうる手段・戦略になりうるのではないのでしょうか。本日は誠にありがとうございました」と語った。

懇親会

4年ぶりに開催される懇親会に先立ち、記念式典が滞りなく終了したことが報告され、日印産連副会長の堆誠一郎氏が挨拶に立った。

「今日受賞された方々はこれまで日印産連を牽引されてきた皆さんであり、今あるのはこの方たちのお陰だと思います。“おめでとうございます”の言葉とともに、感謝の気持ちを表したいと思いま

す。そしてこれからもご指導、ご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。印刷業界は昔ながらの古い業界だと世間では思われがちですが、実際は先端企業集団だと思います。先ほどの講演で企業改革にはものすごいパワーが必要だと実感しました。日印産連も意見交換を行いながら10団体全社で一致団結して、困難をクリアしていきたいと思っています。」

乾杯の発声は、一般社団法人 日本印刷産業機械工業会の森澤彰彦会長が務め、懇親会の会場に賑やかな歓談の和が広がっていった。

宴の中盤には衆議院議員の山田美樹氏と海江田万里氏がご来場になり、記念式典の開催を慶ぶとともに印刷業界の発展を祈る言葉を壇上よりご挨拶いただいた。

最後に日印産連 小谷敬二副会長より「本日は文化の継承と未来への進化というキーワードにおいて非常に重要なポイント、スタート地点だと思っています。ひとつの会社、ひとつの団体だけでは超えることができない大きな波も、10団体がまとまれば、必ずできると信じています。日印産連と10団体が結束して、この無限の可能性に挑戦していきたいと思っています。どうかよろしく願いいたします」と閉会の挨拶があり、2023年「9月印刷の月 印刷文化典」懇親会は、熱気ある三本締めで終了した。



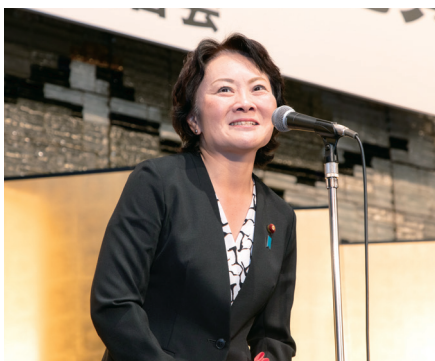
開会にあたり挨拶する堆副会長



(一社) 日本印刷産業機械工業会森澤会長による乾杯のご発声



小谷副会長による中締め



山田美樹衆議院議員



海江田万里衆議院議員